

フェミニサイド 怒りの渦

女性にDV「ノン」パリから世界へ

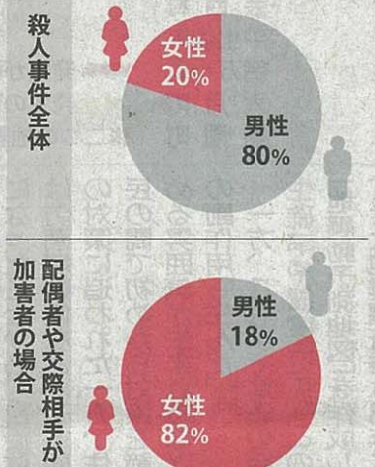
世界的に女性の権利保障が進んでいるとされるフランスだが、男性配偶者や恋人からのドメスティックバイオレンス（DV）による女性の死者数は年間120人を超えて高止まりしている。市民団体などは「フェミニサイド（女性殺し）」と呼び、抗議運動を展開。動きは各国に広がりつつある。【久野華代（パリ）、中川聡子】

追跡

フランスは「世界経済フォーラム」が発表する国別の男女格差の指標「ジェンダーギャップ指数」で15位が中心部の広場を埋めた。

「私の親友が殺された、私は絶対に忘れない」「犯人は誰だ。警察、司法、そしてあなた！」
パリのエッフェル塔を青い帯で目隠しをした女性たちがそんな詩に合わせてステップを踏んだ。配偶者や交際相手による女性の殺害を「フェミニサイド（フランス語でフェミニシッド）」として抗議するパフォーマンスだ。その約1週間前の23日には、パリで「フェミニサイド」への抗議デモが開催され、約4万9000人が中心部の広場を埋めた。

殺人事件被害者の男女別割合の世界統計



※国連薬物犯罪事務所の資料より

配偶者などによる女性の殺害
国連薬物犯罪事務所の調査報告書によると、2017年に全世界で約8万7000人の女性が殺害され、うち6割は配偶者や交際相手、家族など近い人物が加害者だった。男性被害者に対する割合は4割にとどまり、国連は配偶者などによる女性の殺害が男女関係の不平等に由来する問題であると位置付けている。

で、被害者が殺害される前「た」と認めた。11月には府に警察はなんらかの兆候を府が3億6000万円（約430億円）の「フェミニサイド」対策を発表した。フランスを発火点にした元メディアに「これまでの対策が機能していなかった。抗議運動は、ローマやブリッセル、マドリッドなど欧州主要都市のほか、米国やメキシコなど各地に波及し始めている。フランスの社会学者、ステファニー・ルガル氏は「政府の対応は十分とは言えない。（フェミニサイドには）暴力によって自殺に追い込まれたケースなどまだ可視化されていない課題もあり、働きかけを続ける必要がある」と述べ、運動拡大に期待している。

日本 保護対策遅れ

日本でも女性への暴力に抗議する動きが広がる。性被害の実態を訴える「フランスパフォーマンス」も東京・渋谷で行われた。日本のDV対策について、神奈川県大井町に設置された支援センター（法思想）は「諸外国と並ぶ『独り負け』状態だ」と批判する。北欧諸国では配偶者暴行罪があり、英国では身体的暴力だけでなく、支配的言動もDVに当たるとして「行動を制限・強制する罪」が15年に新設された。加害者に別居を命じ、被害者の住居支援を行う制度もある。



カミューさん



だが、そこで知り合った男と親密になり、顔を腫らして家に帰ってくるようになった。カミューさんの父が男の家に踏み込むと、男が母を殴りつけていた。男は警察に逮捕されたが、すぐに釈放された。

「このとき警察に母を加害者から引き離す措置を講じてほしかった」と悔やむ。自助グループに参加してから半年後に母は男の家で遺体で発見された。

男は再び逮捕されたが、死因を巡る当局の対応にも苦しめられた。警察は血中アルコール濃度を示す証拠を男と母のものと取り違え、母の死因を「アルコール摂

「母を失った」警察に不信

「気持ちが高まりすぎる気がしてとてもあの場には行けなかったけれど、勇気づけられた」。19年11月23日にパリ市内であったフェミニサイド抗議デモを、遠くから見つめていた女性がいた。ウエディング業界で働くカミューさん（29）は10年前、母ミリアムさんを、その恋人だった男の暴力で失った。アルコール依存症に苦しんでいた母は自助グループに参加してい

毎日新聞の過去の報道をまとめたところ、19年は少なくとも80人が、妻や交際相手に対する殺人（既遂・未遂）や傷害致死の容疑で逮捕されている。また、警察庁の統計によると、配偶者からの暴力事案などの検挙件数は増加の一途をたどり、18年には9017件（前年比67.5%増）。暴行・傷害が約8000件で、被害者は9割が女性。殺人未遂含む）の被害者は計153人で、うち女性は85人だった。

フランス

11月25日、いすれもロイター

